



学



校



便



り

第32号

since2006

久田学園佐世保女子 高等学校

H23(2011).2.25 [平成22年度 第5号]

創立109周年記念式典



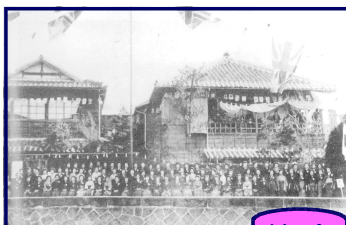
本校は、明治36年久田ワキ先生が、“社会に貢献できる女性の育成”“家庭の良き経営者の育成”という志を掲げ、『佐世保裁縫女学校』として創設されました。現在のように、簡単に会社を興したりできず、また「女子に教育は不要」という風潮が根強い中、並々ならぬ決意と苦労があったことだと思います。創立当初は高砂町の佐世保川沿いに校舎を構え、別名「川端女学校」との愛称で親しまれていたようです。その後昭和2年に稲荷町へ、昭和26年に比良町へと移転し、現在に至っています。久田学園創立の地は、昨年新しくなっ

た保健所（佐世保市中央保健福祉センター）付近にあって、市民が憩う公園の一角にその記念碑が建っています。ぜひ一度訪れて、当時に思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

本年1月20日（木）、久田学園は創立109周年を迎え、記念式典を行いました。式典では、挨拶・祝辞に続き、日頃の学習の成果を在校生が披露しました。礼法基本動作（1年生）、着物の着装（2年生）、高校生活への思いを込めた3分間スピーチ（3年生）、なぎなたの型披露（3年生）と、それぞれ学びと成長の証しを充分に見せてくれました。特に、はかま姿で鉢巻きを締め、たすき掛けでのなぎなた披露は何とも凛々しく、また堂々としていて、「さすが3年生！」という存在感を示すことができました。

歴史は一日一日、日々の積み重ねです。在校生の皆さんは109年中の3年間ですが、歴史をつなぐ大切な役割を果たしたことに誇りを持ち続けて欲しいと思います。

大切なことはどんなに時代が流れても変わりません。以下の写真は、上段が創立当時、下段が現在の様子です。比較してみましょう！！



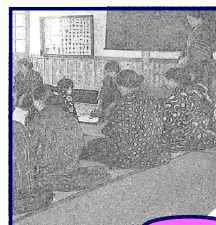
校舎



調理



和裁



礼法



食アレンジメントコンテスト開催

《 1 班 》

タイトル：クリスマスパーティー



～ Menu ～

じゃがいものグラタン

ミネストローネ

手づくりパン

チョコケーキ

《 2 班 》

タイトル：サンタのごちそう

～ Menu ～

グラタンパイ

ポトフ

野菜サラダ

ロールケーキ



《 3 班 》

タイトル：ホワイトクリスマス

～ Menu ～

チーズinコロッケ

クラムチャウダー

サラダ

クリスマスケーキ



「食アレンジメントコンテスト」とは、グループに分かれ、決められたテーマ・予算・時間内で調理の技術やアイデアを競うものです。日頃からスクールランチで鍛えた腕を存分にふるう絶好の機会となっています。毎回、甲乙つけ難い力作が登場し、審査員を悩ませています。

今回のテーマは“クリスマス”

《 4 班 》

タイトル：あったかいパーティー

～ Menu ～

ピザ

コーンスープ

クリスマスケーキ



《 5 班 》

タイトル：I LOVE クリスマス

～ Menu ～

シチュー

マカロニサラダ

ガトーショコラ

コーヒー



《 6 班 》

タイトル：色とりどりクリスマス

～ Menu ～

オープンサンド

ソーセージとじゃがいものコロコロソテー

ポテトとキャベツのクリーム煮

チョコレートケーキ



味・見栄え・創意工夫の3点を主なポイントとして審査され、優勝は3班、準優勝が1班という結果になりました。やはり今回も、各班の努力の結晶ともいえる作品が勢揃いし、差は無いに等しいと言える好勝負が繰り広げられました。

卒業に向けて、各講習会を実施 その1

～MY箸づくり、講演会～



本校では、入試に箸の持ち方を導入するなど、人を思いやる心と姿勢をあらわすマナーや作法を重要視しています。そのような考えに共感くださいました“国際箸学会”会長・小宮山栄様、同じく会員の中村和夫様両名が1月27日（木）に来校され、箸づくり等ご指導くださいました。

まず最初に、ご講演をいただき、その中で、日本には「手紙」「手数」「手ごわい」など、たくさんの“手”がつく言葉があり、このことは昔から手先が器用だった日本人の特長をあらわしている。その象徴的なものが箸であるとお話してでした。箸文化を大切にすることは、日本文化を大切に通じ、まさに本校が日頃より実践している活動と大きく重なるものがあって、

改めてその重要性を再確認させられました。

講演の後は、MY箸づくりに挑戦。白木の箸を自分の手のサイズに合わせカットし、その切り口をやすりで丸く整えた後、マーカーで箸全体に色を塗っていきます。仕上げにニスを塗って完成ですが、そこはプロのお箸屋さんにお任せです。一端お預けし数ヵ月後、こちらに返送されて来ます。デザインも配色も人それぞれ、世界で一つだけの手づくりの箸の出来上がりが今から楽しみです。自分たちで調理したスクールランチを、自分で作った箸を使って食事をする。きっと料理の味が何倍にも美味しくなることでしょう。

最後に、小宮山様が考案されたという『箸ピーゲーム』で締めくくりです。箱に入ったピーナッツを箸でつまみ、隣の箱に移した個数を競います。制限時間は30秒。大いに盛り上がり、楽しい雰囲気の中、講習会は終了しました。

～お魚講習会～

例年この時期の恒例となった「お魚講習会」ですが、今年は2月10日（木）に実施しました。講師は、古川好幸様（佐世保魚市場協会）・佐野和子様（調理師）・鶴田尚子様（栄養士）の3名です。

まず魚の栄養についてご講義いただき、続いてさばき方の実習、調理へと移りました。

普段からスクールランチなどで包丁には慣れていているとはいえ、魚は勝手が違うのか、最初は苦戦している生徒も見受けられました。しかし、段々要領をつかんでくると、うろこを取り、皮をはぎ、三枚におろしたり、となかなかスムーズな包丁さばきを見せるようになっていました。

刺し身（イサキ・ハマチ・イカ）、イサキの漬け丼、イカ下足の天ぷら、具たくさんみそ汁と、お昼からぜいたく過ぎるメニューです。「街の定食屋さんでこの『海鮮満載ランチ』を食べたら値段はいくらぐらいかな？」など、大人も生徒も考えたかどうかはわかりませんが、みんなで美味しくお腹いっぱい、いただきました。

魚を食べる機会が減っていると聞きます。この講習会で、魚の美味しさはもちろんのこと、新鮮で美味しいものを身近に食べることができる、ふるさと佐世保・長崎県について見つめ直す良い機会になったのではないのでしょうか。



卒業に向けて、各講習会を実施 その2

～「パパ・タラフマラ」ダンス講習会～

2月14日(月)・15日(火)の2日間、本校にて、パフォーマンス劇団「パパ・タラフマラ」によるワークショップが開催されました。

「パパ・タラフマラ」とは“ダンス”“演劇”“美術”“音楽”など様々なジャンルを併せ持った舞台を各国で展開し、世界の人々から高い評価を受けているグループです。

今回講師を務めてくださったのは、グループの代表であり、演出・脚本・振付・音楽すべてを手がける小池博史様。そしてもう一名、「パパ・タラフマラ」のほぼ全ての作品に出演していられるという白井さち子様です。

椅子の下に置いたペンを5～10分かけて拾う動きや、声を出しながらのダンス、身体全体を使った肉体表現など、日常の枠を飛び越えた不思議で面白く、そして貴重な体験をすることができました。最初、今まで見たことも聞いたこともない、まさに未知の世界へ引き込まれた感じでしたので、ほとんどの生徒が戸惑って、なかなか思うような動きができていなかったようです。ところが2日目の後半あたりになると、少しずつ感覚でとらえる事ができるようになった生徒もいたようでした。このワークショップを受けて小池様が後日、「あれはあれでダンスとして成立していた。色々な発見があった。」との感想を述べておられました。最高の褒め言葉と、良い方に受け止めておきましょう！！

2月17日(木)には、アルカスSASEBOにて「パパ・タラフマラ」の『三人姉妹』という公演があり、全校生徒で鑑賞しました。率直に言うと、随分難解な舞台ではありましたが、さすがに目の前での動きは迫力があり、会場の皆が、息を吞んで惹きこまれていたようです。



～パンづくり講習会～

2月17日(金)、ジャパンホームベーキングスクール教師、橋本京子様をお招きし、「パン講習」を実施しました。

スクールランチでは、パンを使った料理ももちろんありますが、生地からつくるのはこれが初めてです。粘土遊びさながらに、伸ばしたりこねたりして楽しんでいる生徒たちでしたが、パンの生地はどうやら繊細なようです。

この日は雨模様で、調理室全体の温度が低く、発酵が進まないということで、あちらこちらのコンロにお湯をかけ、少しでも室温が上がるように工夫。また、生地を傷めないように切る方向が決められていたり、ドーナツの穴もやみくもに開けるのではなく、極力指と触れる部分を少なくして開けていくというふうに、優しく丁寧に扱わなければいけません。そんな手間暇をかけ、まるで赤ちゃんと接するように愛情をかけた？パンがよいよ完成。美味しくない筈がありません。

クラブハウスサンド・シナモンドーナツと具たくさんスープを合わせ、お洒落なランチをみんなで楽しみました。



卒業に向けて、各講習会を実施 その3

～「接遇マナー」「DV防止」講習会～



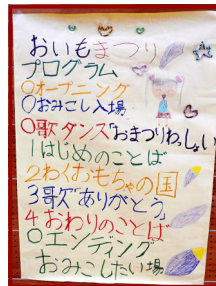
2月18日(金)、元ハウステンボス研修指導員でストレスケアカウンセラーの大島智恵子様を講師に、「接遇マナー講習会」を実施しました。身だしなみや笑顔についてなど、実技を

交えながら楽しく学びました。“はい”“は～い”ではなく、“はいっ”との返事を心がけましょう。

2月22日(火)には「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止講習会」を実施。『NPO法人DV防止ながさき』より悦晴美様を講師にお迎えしました。直接的な身体への暴力だけではなく、心・性的・お金に関しても暴力になるという認識を得ました。何もかも自分のせいにせず、一人で迷わず、どんな些細なことでも相談することの重要性を強く感じました。

『おいもまつり』にお呼ばれです。

11月17日(水)、大久保小学校でも行われた『おいもまつり』にご招待されました。参加いたしました生徒一人ひとりに宛てた可愛らしい招待状をもらっており、そして会場に着いてもこれまた可愛らしい手作りの名札を、小さい手で懸命に生徒の胸につけてもらうなど、熱烈大歓迎となりました。おみこしに始まり、歌やダンス、工夫を凝らしたゲームなど、楽しい時間があっという間に過ぎて行きました。



おまつりの後は場所を移動し、みんなのお待ちかねである会食の時間です。スイートポテトや大学芋など、甘くて良い香りが漂い、美味しそうなスイーツがずらりと卓を飾っています。パクパクと口にはおぼりながら、料理のことや学校のことなど話が弾み、小学生と高校生との微笑ましい交流が続きました。大久保小学校の皆さん、とてもお世話になり、ありがとうございました。これからもお互いに楽しく行き来しましょう。



針 供 養 ～ 感謝を込めて～

針供養とは、折れた針を供養するとともに、裁縫の上達をお祈りする行事のことです。昔は、各家庭で行われていたようですが、針仕事の減少とともに、段々行われなくなってきています。現在は、裁縫に関わりのある企業や学校で行われることが多いようです。

本校においても、2月8日(火)に針供養を実施しました。女性の守り神であると伝えられる「淡島様」をお祭りする祭壇に向かい、生徒全員でお参りしました。そして、いつも硬いものばかり刺している針を、この日ばかりは豆腐やこんにゃくなど柔らかいものに刺して、感謝の思いを込めます。その後、蘇鉄の木の根もとにその針を納め、供養は終了となりました。

※蘇鉄は鉄を養分にし、成長すると言われています。



強盗事件発生...??



昨年の5月に大久保小学校2年生の皆さんと、一緒に協力して植えたさつまいもの苗。日を増すごとに、茎や葉が成長し、秋の収穫をワクワク心待ちにさせたさつまいもの苗。土を耕し肥料を撒き、畝をつくり、水を与え、雑草を取り、ツルを起し、たくさんの手間をかけたさつまいもの苗。いよいよ収穫の秋がやってきました。試しに一つだけ掘ってみると、なかなか大きいイモが獲れました。今年もどうやら期待できそうな感じです。

それから数日後、収穫を目前に控えたある日、畑を見に行くと異変が起きていました。青々と茂っていた葉がしんと垂れ下がり、地面にはボコボコとした跡がそこら中についているのではありませんか。慌てて土を掘り返してみると、案の定、何も出てきません。「やられた!」と皆が思いましたが、時すでに遅し。ここ最近のニュースで全国的な猪の被害が報道され、また学校近隣でも出没例があったばかりの頃でした。

翌日、悲しみを抑え、心を奮い立たせ、「それでも、もしかしたら・・・」と、わずかな希望を胸に畑全体を掘ってみることにしました。しかしながら、出てくるのは石や土のかたまりばかり…。現実は何と厳しいのでしょうか。結局収穫量は、親指程の大きさの切れ端2個という結果でした。ちなみに上の写真左は、期待に胸を膨らませながら仲良く苗を植えている様子。「ピースサインが素敵です!!」右の写真は、衝撃の結末に茫然自失?の様子。「どこを見つめ、何を思うのでしょうか…」

今回は大変残念なことになりましたが、猪を一方的に責めることはできません。もとを糺(ただ)せば、人間が山の木々を切り倒し開発を進めた結果、猪の生活範囲を狭めてしまったのが原因です。猪も厳しい自然の中で必死に生きていかなければなりません。小学生、高校生、そして大人たちも色々考えさせられる出来事でした。

緊急事態発生...??

厳しい寒さが続いた今季の冬でしたが、本校にも様々な形でその影響を与えました。

まず12月。水道管が凍結し、その後破裂。調理室で水が使えなくなっていました。折りしもこの日は、大久保小学校の保護者の皆様を迎え、スクールランチを一緒にする日でもありました。



大変困った状況になりましたが、事情を察した佐世保市水道局の方々がすぐに給水車を準備し、また特別のホースをつないで各蛇口から水が出る手配までしていただきました。テキパキとした迅速な対応に、生徒・職員一同、大感動です。感謝の一言しかありませんでした。

2月には、地中に埋められたガス管の継ぎ目が緩み、ガス漏れが発生しました。これも、寒さで膨張収縮を繰り返したのが原因ではないかとのことでした。この際も、西部ガスの方々が、地中に少しずつ穴を開けながら丁寧に、漏れている場所を突き止めて修復していただきました。原因がすぐに特定できたので実行はされなかったのですが、万一に備え「ストーブが使えず寒い思いをしないように」「調理室が使えるように」と、様々な対策を考えていただきました。これもまた本当に感謝です。

この一件に関し水道局の方が、「早よせろ!!」など文句はしょっちゅう言われるけど、お礼を言われたのは初めて」とおっしゃってました。確かに不便な思いをしますが、自然の営みは人間にはどうしようもありません。また、水やガスが使えることは決して当たり前のことではありません。目に見えない多くの人々のおかげで、その恩恵を受けられるのです。普段の生活ではあまり考えないことではありますが、今回の件で改めて気付かされました。感謝の気持ちを常に忘れないようにしたいものです。

自戒を込めて。

ホ " ランティア ・ チャリティー 活 動

歳末チャリティーコンサート

12月19日(日)、佐世保市民会館にて行われた「歳末チャリティーコーラスコンサート」に参加しました。大勢の観客を前に、2曲を披露。息の合った歌声を会場いっぱいに響かせました。



獅子舞の活躍



佐世保の秋の大祭「おくんち」。11月1日(月)、秋晴れの良き日、松浦公園踊り場において、本校の獅子舞が堂々と舞いました。例年より多くの賑わいを見せる観客を前に、無事に役割を果たすことができました。

2月5日(土)には、介護老人保健施設『すいざん荘』の“豆まき節分祭”へご招待を受け参加しました。前年はインフルエンザが流行したため参加できませんでしたので、2年振りのお披露目となりました。通常の演舞もさることながら、会場を獅子がまわると、涙を流して喜ばれるご年配の方もおられ、生徒たちも一段と意気に感じ、より張り切っていたようです。続いて豆まきの

お手伝い、最後には皆様のご厚意で出し物へ飛び入り参加までさせてもらい、お開きとなりました。

クリスマスボランティア

毎年、長崎新聞社が主催し、県内3カ所で行われる「クリスマスこども大会」。佐世保では、3千人以上の親子連れが参加し、楽しみにしています。本番前の12月24日(金)、大会の準備のお手伝いを行いました。



朝市ぜんざい会



佐世保朝市新春の恒例行事となった「ぜんざい会」。今年もお手伝いに行ってきました。寒さに身体を震わせながら早朝5時に集合。準備を済ませ、6時からぜんざいづくり開始です。小豆・もち米それぞれ90kgを使い、二千人分を大鍋で作ります。程なくして甘いぜんざいと香ばしいお餅の香りが漂い始め、ついに出来上がり！気がつくと3か所の会場全てに長蛇の列ができています。7時、「開始」の合図と同時に多くの人が手を伸ばしてきます。生徒もそれに應えるべく、次々とお椀に注ぎ、餅を入れ、手際良くお渡ししていきます。休む間もなく仕事に没頭すること約1時間、あれだけ大量につくったぜんざいも全てきれいに無くなってしまいました。

その後、朝市の皆様にご馳走いただいたホカホカのお味噌汁とおにぎり。ペコペコのお腹と冷えた体の隅々までしみ渡りました。ありがとうございました。